

シカの食圧が治山工事施工地に与える影響調査
(2024年調査 速報)

佐久地域振興局林務課
長野県林業総合センター

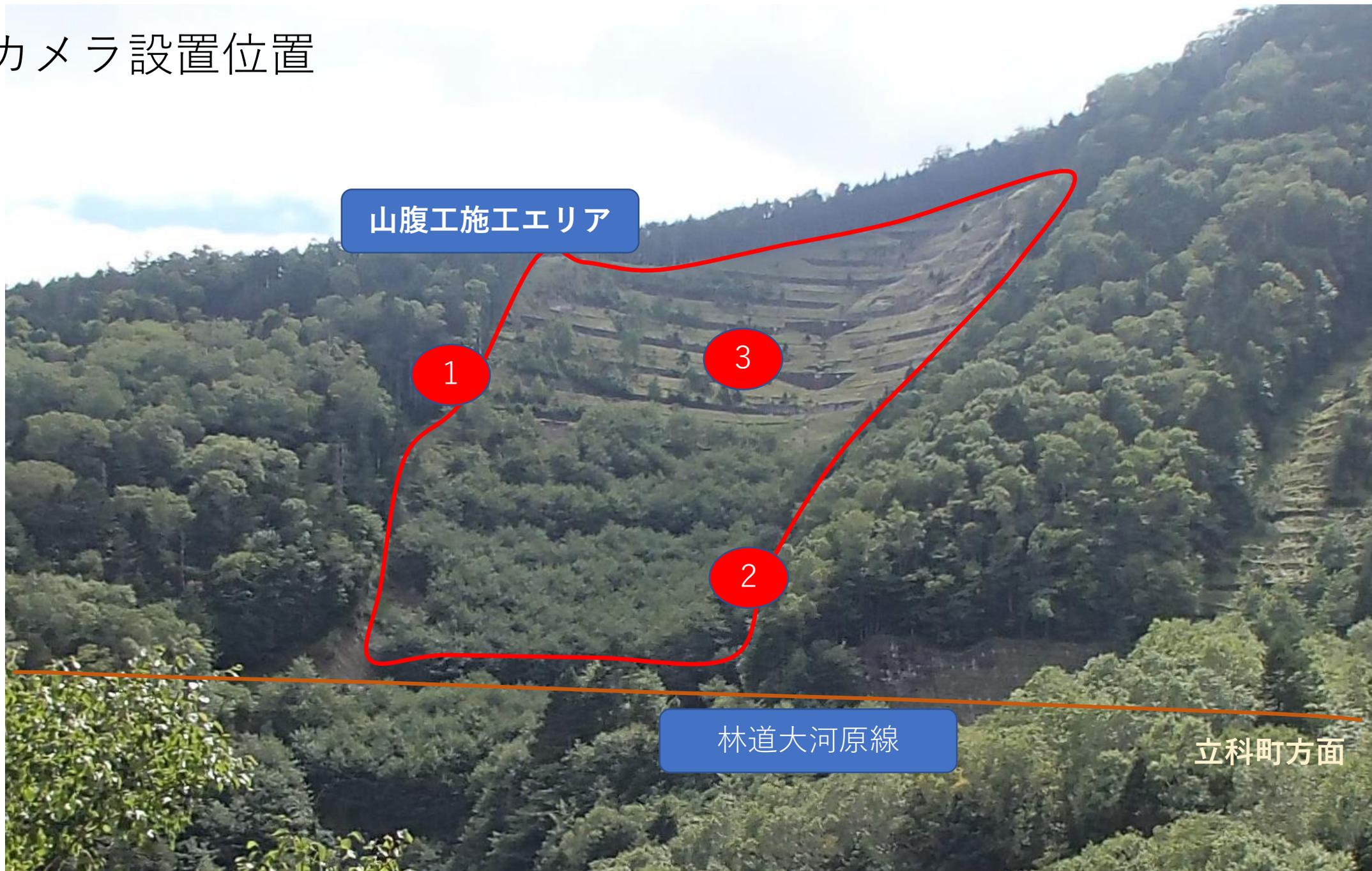
調査地概要

調査場所	佐久市大字春日岳大ぞれ(大河原峠頂上付近) 平成元年度～5年度 治山工事施工地
工事内容	山腹工 約2.5ha (土留工、水路工、種子吹付工、植栽工 ほか)
調査日	令和6年6月27日～同年11月14日まで (カメラ調査は冬季も継続中)

今年度調査の目的

- ニホンジカは個体密度が高くなるほど被害が顕著になるため、今年度はニホンジカの個体密度を観測するとともに、踏み荒らしの影響を確認
- 今年度は、治山施工地に侵入するニホンジカの個体密度を観測するため、施工地脇の林内2か所と施工地にカメラを設置

カメラ設置位置



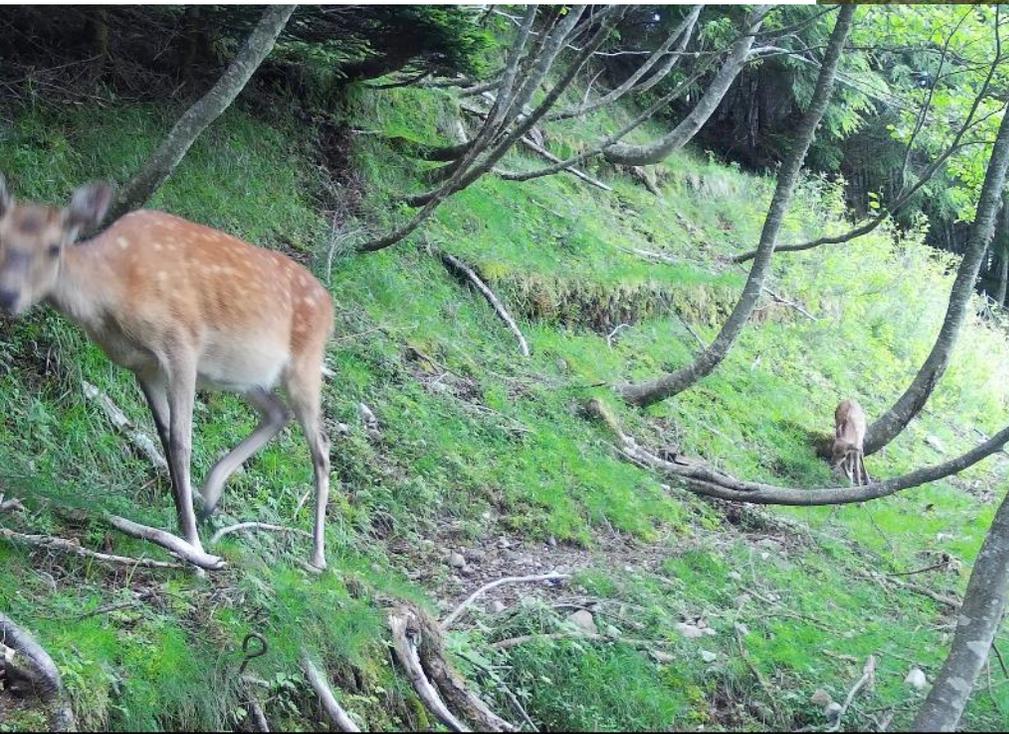
1 山腹工の脇



山腹工の周囲にある天然林で
複数個体の出没を確認

2 山腹工下部

複数個体のニホンジカが
昼夜を問わず移動している



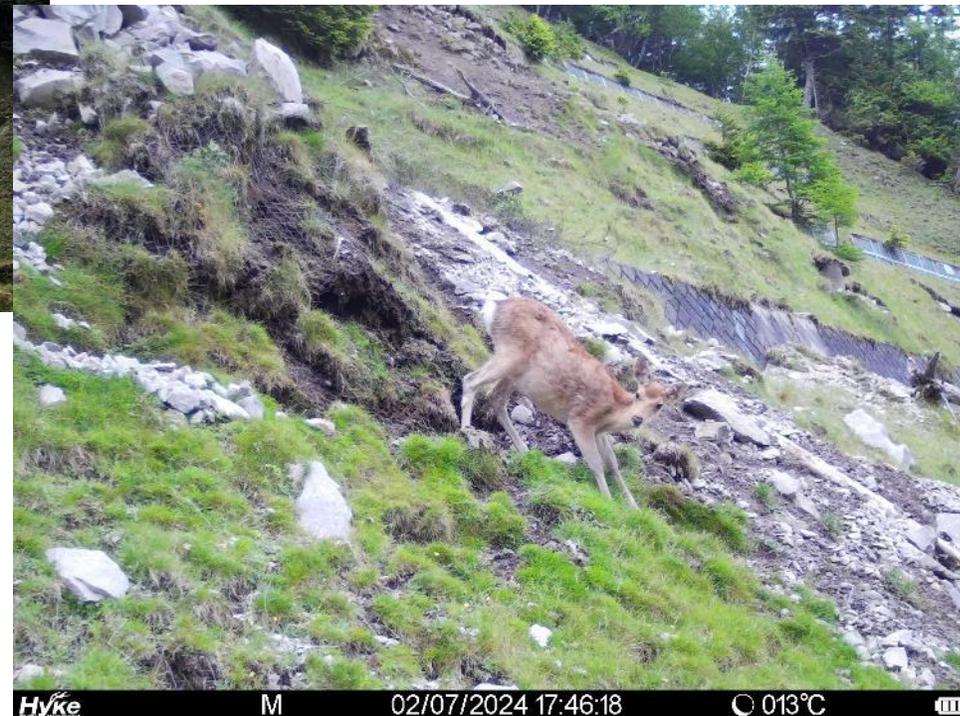
Hyke M 08/07/2024 06:35:12 015°C



Hyke M 09/07/2024 17:24:48 014°C

3 山腹工現場

3



ニホンジカの採食及び斜面を下って石を落とす状況を確認

大河原峠の個体密度は、北八ヶ岳麦草峠周辺の天然林に比べてはるかに多く、ニホンジカが集中していた。

ニホンジカが集中的に集まることで被害が拡大していると推察

北八ヶ岳周辺のニホンジカ出没頻度
(頭/日) 6~10月



今後の検討課題

- 治山施工地（主に植栽工・種子吹付工）におけるニホンジカの食害影響が顕著であることが明白となった。
- ニホンジカの個体密度が多いことで、植生の衰退及び踏み荒らしによる小規模なリル（地表面が削られてできた細かい溝）が発生しているものと考えられるが、当地だけの現象であるのかどうかを確認する必要がある。（シカの生息数が多い地域での治山施工現場の調査等）
- ニホンジカの個体密度が非常に高い一方で、急傾斜地であることから、どのような対策が可能であるかについて、数年間調査継続しながら、どのような対応が可能であるか、他所の事例も集めながら検討していく。